
20 悪性疾患患者に対する AHCC 用量依存の考察

○岩本光存¹⁾、小砂憲一²⁾、若命浩二²⁾
医療法人 延山会¹⁾、(株)アミノアップ化学²⁾

【目的】AHCC3g/day を飲んでいる癌患者について、症例によっては 6g/day に増量しなければ腫瘍マーカーの低下が認められないケースがあった。6g/day に増量した際の有効例のうち AHCC 投与量と腫瘍マーカーの低下に関連性がみられた症例をいくつか紹介する。

【対象】術後再発の可能性のある患者について AHCC3g/day を投与し、腫瘍マーカーの推移について検討を行った。この中で腫瘍マーカーが増加傾向にあった患者に対して AHCC を 6g/day にして投与を行った際の経過について検討した。今回の成績は有効例についてのみレトロスペクティブに検討したものである。

【成績】代表的症例(抜粋) 症例：57 才 男性 膀胱癌術後間もなく再発、抗癌剤投与は本人の希望により中止。AHCC3g/day を飲み続けるが腫瘍マーカーが上昇傾向にあった (IAP : 1586 μ g/ml)。AHCC を 6g/day に増量した結果、約 2 ヶ月で正常値 (IAP : 500 μ g/ml) 以下に減少。その後、マーカーは基準値を維持しており、本人は食欲もありいたって元気である。その他の症例(肝癌 : AFP、子宮癌 : CA125、膀胱癌 : IAP、乳癌 : CA15-3、肺癌 : CEA) 等の報告の予定である。

【結語】これらの成績により AHCC の使用量、併用薬物などは血液マーカーなどをモニターしながら投与量を決めるなどの配慮が必要である。すなわち、AHCC は機能性食品であるが、病態によっては医師の管理・アドバイスのもとに使用されて最も有用性を発揮するものと考えられる。今後の課題として症例総数に対する有効例の算出、腫瘍マーカーの変化と QOL の相関についてなどを検討する予定である。